

「全国学力・学習状況調査」公表資料に関する様式例（小学校）

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における 北中道小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。調査結果の分析をいたしました、本校の平成26年度「全国学力・学習状況調査」は、ホームページに掲載しております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （1） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・北中道小学校では、6年生 35名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

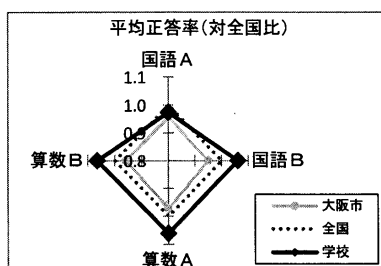
北中道小 学 校

児童数

35

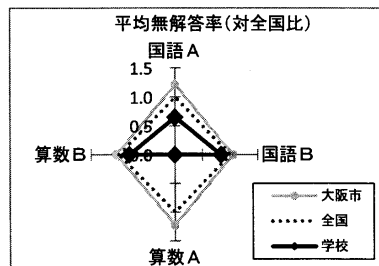
平均正答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	71.0	58.9	82.9	62.0
大阪市	69.7	52.7	76.0	55.8
全国	72.9	55.5	78.1	58.2



平均無解答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	1.5	7.7	0.0	3.5
大阪市	2.8	9.7	1.1	4.5
全国	2.3	9.2	0.9	4.3



結果の概要

平均正答率は、国語、算数ともにA問題(身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)を中心とした出題)、B問題(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容(主として「活用」に関する問題)を中心とした出題)ともに大阪市平均を上回っていた。無解答率については、国語・算数ともに、大阪市・全国平均より低いポイントになっている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

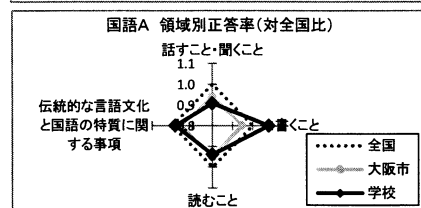
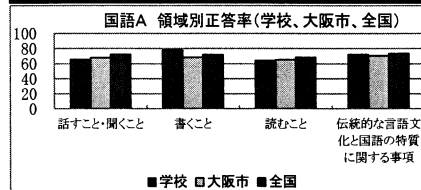
国語科Aにおいては、71ポイント取得しているが、活用を主とした国語科Bでは、58.9ポイントの取得になっている。A問題は大阪市平均を上回り、B問題は大阪市・全国平均ともに上回る数値である。国語科AとBの取得ポイントの差を全国・大阪市と比較したとき、本校の差は、大阪市・全国よりも少ない。国語科における知識・理解の問題に關しての理解は高い水準で達成できているので、知識等を活用する能力(思考力、判断力、表現力など)についても、その水準まで到達できるよう指導を進めていかなければならない。国語科における本校の今後取り組むべき課題としては、知識・理解にかかる取り組みを継続して行っていくことは従前通りであるが、知識等を活用する能力(思考力、判断力、表現力など)を一層身につける取り組みをしっかりと行っていく必要がある。このことは、無回答率が、国語科Aの1.5%に比して、国語科Bにおいては7.7%になっていることから言うことができる。

算数科においては、習熟度別少人数授業を実施し、各児童の習熟度に合った学習の場を設定した。理解しやすい授業の実践により、基礎基本の定着が図られている。また、計算等の基本的な学習は、繰り返し取り組むことが大切であることから、学習プリントを整備し、学習のふりかえりや宿題を通して継続して取り組みを進めている。これらの取り組みの成果が表れてきていると言える。しかし、B問題において、全国・大阪市平均は上回っているものの、A問題の平均値との差が20.9ポイントと隔たりがあった。知識等を活用する能力(思考力、判断力、表現力など)が一層身につける取り組みを国語科同様に行う必要がある。

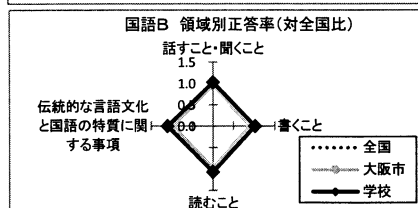
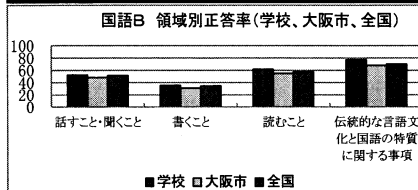
児童質問紙において、「勉強が好き」、「授業の内容がよくわかる」、の項目に対して、算数科は全国平均と同じくらいの値で、「当てはまる・やや当てはまる」と答える児童が見られたが、国語科においては、同様の質問に対して下回る結果となっている。学習に対する関心意欲がより高くなるように、指導者側の工夫が必要である。家庭においては、家庭学習の質問において、全くやっていないと答える児童の割合が全国より多くみられる。自ら学習しようとする意欲を高められるよう、授業の工夫、家庭との連携を行っていく必要がある。

【国語】	結果の概要		
	A問題においては、観点別にみると平均正答率が大阪市平均を若干下回っているものもあるが、両問題ともに、全体で大阪市の平均値を上回っている。B問題に関しては、全観点全国平均をも上回っている。大阪市、全国の平均正答率と比較しても、記述の問題において、力を発揮することができている。 今回の調査における国語科における学習・授業に関する意識調査においては、関心意欲においては、全国と比較して低い傾向がみられた。		

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	65.7	67.9	72.4
	書くこと	3	78.1	68.5	72.2
	読むこと	2	64.3	65.1	68.5
	伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	12	72.6	70.6	73.7

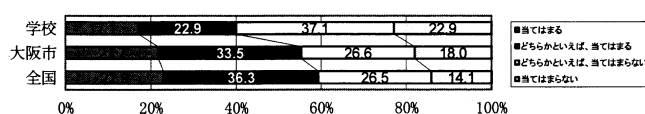


B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	52.4	48.3	51.2
	書くこと	3	35.2	30.9	34.4
	読むこと	7	61.6	54.6	57.3
	伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	2	77.1	67.9	69.8

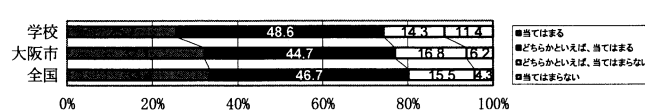


国語に関する「児童質問紙」

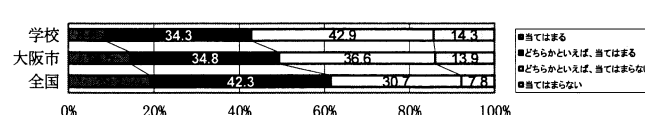
50
国語の勉強は好きですか



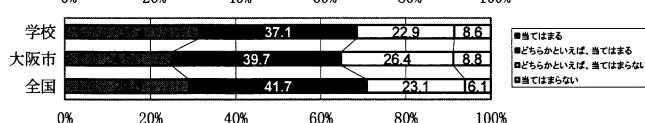
52
国語の授業の内容はよく分かりますか



55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題
全体的に、基礎・基本の定着はできてきているが、理解が不十分な児童の習熟に向けての取り組みの工夫が必要である。B問題で問われた、「立場を明確にして、質問や意見を述べる力」について、全国平均と比較しても、正答率が高かった。

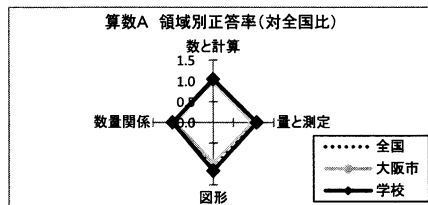
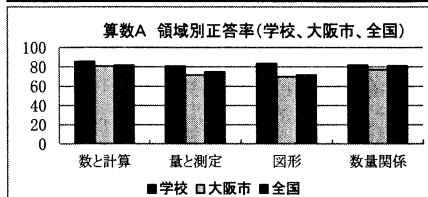
今後の取組
学習プリントやドリルを積極的に活用し、基礎・基本の定着を図っていくとともに、少人数指導を取り入れて、個に応じた指導を充実させていく。また、単元テストには現れにくい思考・判断・表現力をつけていくために、単元でつきたい力を明確にして指導を行っていき、子ども同士の交流活動を通して、学びを深化させたりする授業を実践していきたい。

【算数】

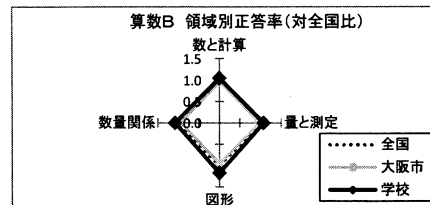
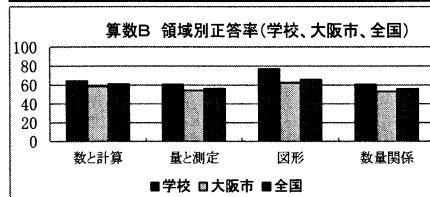
結果の概要

A、B問題ともに、4つの観点において、大阪市、全国の平均値を上回っている。A問題は、全体的に理解できている。B問題に関しては、平均を上回っているものの、数量の関係を図で正しく表現することに関して、大阪市・全国の正答率で下回っている。今回の調査の中で、算数科における学習・授業に関する意識調査において、学習に対する関心意欲の面で、全国と同等の高さを示している。

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	85.4	80.8	81.8
	量と測定	3	81.0	71.8	74.8
	図形	4	83.6	70.0	71.8
	数量関係	3	81.9	77.2	81.3



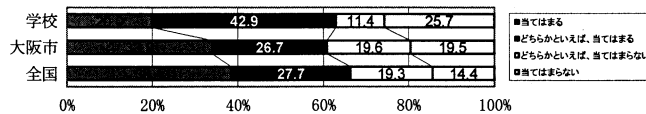
B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	64.3	58.9	61.3
	量と測定	5	60.6	54.4	56.5
	図形	1	77.1	62.5	65.7
	数量関係	5	60.6	52.9	56.2



算数に関する「児童質問紙」

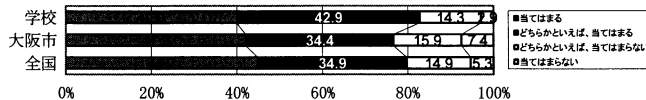
62

算数の勉強は好きですか



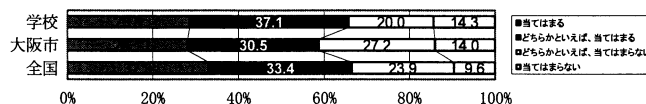
64

算数の授業の内容はよく分かりますか



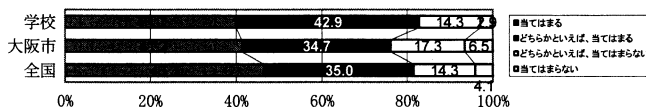
67

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



70

算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



成果と課題

算数科に対して、子どもたちは意欲的に取り組んでいる。習熟度別少人数指導を実践していることもあり、理解できる授業の実践ができていると考えられる。AB両問題において、一定の理解が見られてはいるが、基礎基本に関する問題、活用探究問題においても、全国平均を上回ってはいるが、全体的に十分学力が定着しているとまではいかない。

今後の取組

基礎基本に関する取り組みは、繰り返し学習課題を与えて定着をより図るようにする。また、理由を答える問題に対して、なぜそうなのかといったことを自分の言葉で答えられるようになる取り組みを強化させたい。解法の理由や根拠を説明できるように、ノートやワークシートを工夫したり、児童相互で学び合う場面を設定したりする指導の工夫から、自分の考えを持ち、順序立てて発言できる児童を増やしていきたい。

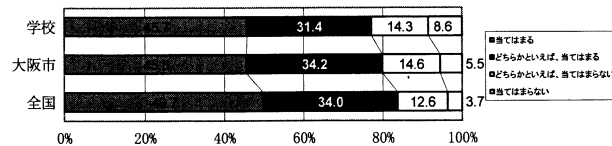
学びの充実に向けて(1)

結果の概要

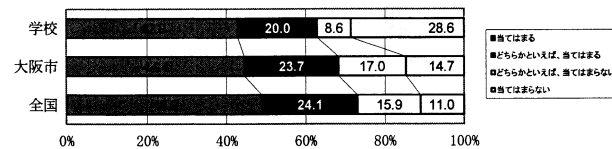
下記における質問事項において、全体的に大阪市・全国平均よりやや下回っている。

質問 番号	質問事項
----------	------

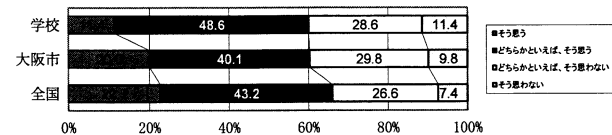
42
5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



48
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

項目において大阪市・全国との比較では、やや下回ってる。今回の結果から、読書活動の充実をより図っていくとともに、授業の中で、友だちと意見交流するなど学び合う場面を設け、より主体的に取り組める工夫を進めていきたい。

今後の取組

子ども自身が、「楽しい」と感じ、よく「考え」、そして「分かる」授業の実践を重ねていきたい。そして、学習に対してより意欲的に取り組める児童を育てていく。そのために、授業研究を怠らず、日々、子どもの実態に沿った授業を構築する必要がある。また、読書好きな子どもを育てるためには、図書室の活用を充実させるとともに、地域ボランティアの方々と連携して子どもたちにとって楽しい取り組みを継続して進めていく。

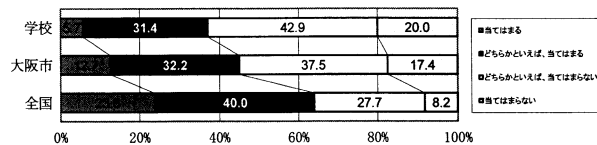
学びの充実に向けて(2)

結果の概要

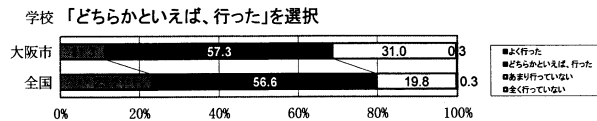
総合的な学習の時間の在り方について、子ども自身が主体的に取り組めるような指導の工夫が必要であると思われる。通常の学習においては、子ども同士で学び合う学習形態で学習を進めてきた様子が見えがえた。

質問番号 質問事項

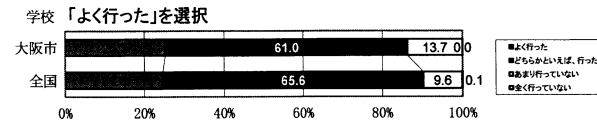
40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



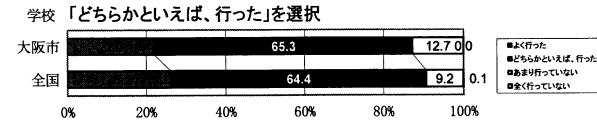
42【学校質問紙】
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。



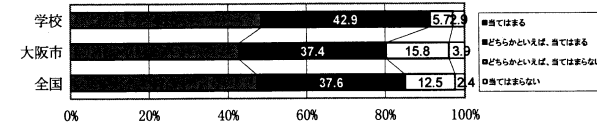
30【学校質問紙】
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。



41【学校質問紙】
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。



43
5年生までに受けた授業では、学級の友達とて話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



成果と課題

日ごろの学習において、子ども同士で学び合う学習形態で学習を進めてきている様子が見えがえた。思考・判断・表現力を必要とする活用・探究形態の学習に力を入れた取り組みをより推進していきたい。

今後の取組

総合的な学習の時間においては、子どもがより主体的に取り組めるような学習活動を構築する必要がある。

基本的生活習慣

結果の概要

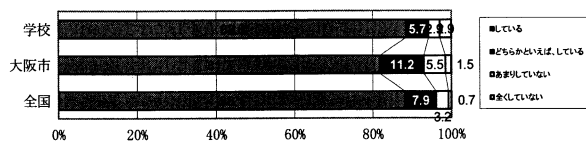
食事、睡眠といった基本的な生活習慣は、比較的良好な様子が見られる。テレビゲーム等の活用については、他の小学生とさほど差はないが、スマートフォンの活用は、少ない傾向が見られた。

質問
番号

質問事項

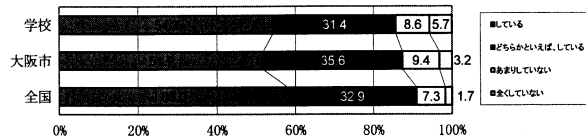
1

朝食を毎日食べていますか



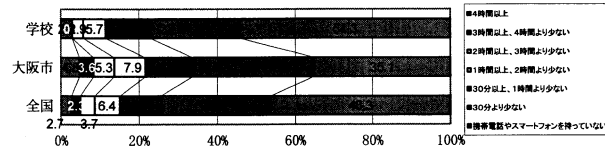
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



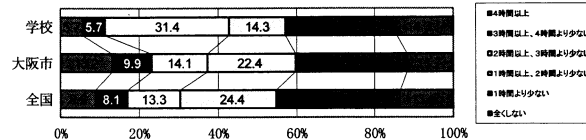
13

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

基本的な生活習慣については、家庭の影響が大きい。朝食をとることや、睡眠においては、全国と比較しても大きな違いは見られない。スマートフォンは、家庭に啓発して、触れる機会を少なくすることが肝心であるとする。

今後の取組

家庭との連携、学校からの情報発信を積極的に行い、PTAと連携して、よりよい生活習慣が構築できるような取り組みの工夫が必要であると思われる。

家庭学習

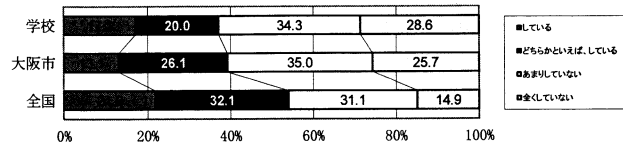
結果の概要

家庭学習の時間が全国から見て少ない傾向がみられる。また、学校の時間以外まったく学習をしない児童も見られ、その割合も多い。

質問番号 質問事項

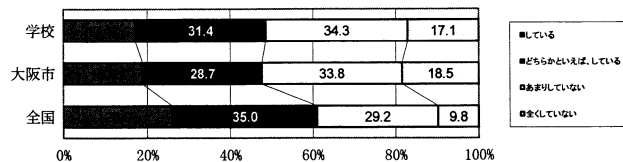
24

家で、学校の授業の復習をしていますか



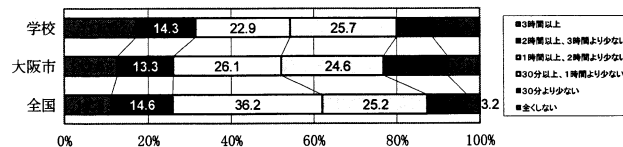
21

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



成果と課題

今回の学力テストでは、大阪市平均を上回っているが、成績下位層の底上げが課題である。授業の充実はもちろんであるが個に応じた家庭学習の習慣化を定着させていきたい。

今後の取組

家庭学習の重要性を啓発していくとともに、成績下位層の底上げに向けての組織的な取り組みを行っていく。

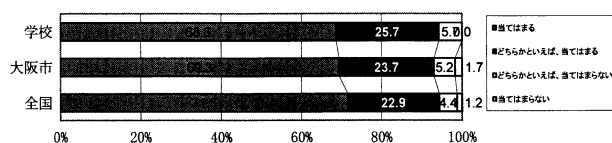
自尊感情・規範意識

結果の概要

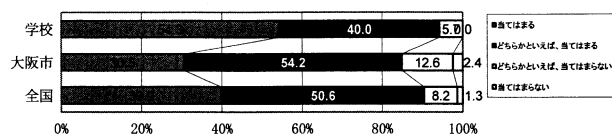
規範意識は高いが、自尊感情の項目に関して、肯定的な回答が全国と比べて低くなっている

質問 番号	質問事項
----------	------

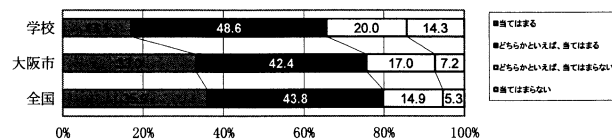
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



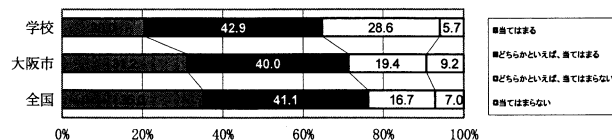
34
学校のきまりを守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

自尊感情や、規範意識を高めることに関しては、家庭との連携や、学校での取り組みの工夫が必要である。道徳教育の効果的な実践、子どもに対する言葉のかけの仕方など、子どもの目線を意識した働きかけを実践していきたい。

今後の取組

学校生活のあらゆる場面で規範意識、自尊感情を高める取り組みを進めていく。学習をはじめ、子どもが取り組みを進めていくうえで、成功体験を積むことや、ほめる機会を多く作るなど、活動の立案において、よく計画を練り、子どもへの適切な支援ができるようにしていく。

学校・家庭・地域の連携

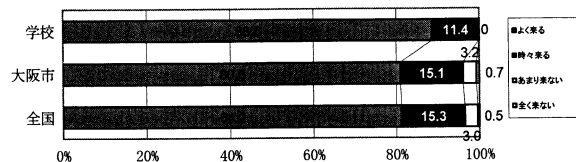
結果の概要

家族の対話で学校のこと話したり、地域や社会に目を向けたりすることに比べ、学校行事に関して、より関心を持っていることが分かる。

質問 番号	質問事項
----------	------

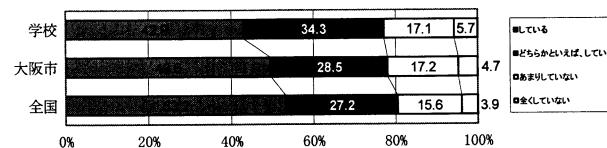
20

家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



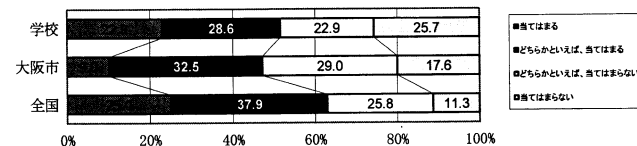
19

家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



成果と課題

学校行事に関して大変協力的である。PTAや地域と連携した取り組みも活発に行っている。地域や社会にも、より目が向くよう働きかけていく。

今後の取組

PTA、地域、保護者とよく連携して、生きる力を育む行事や取り組みを構築していく。

学校組織の改善

結果の概要

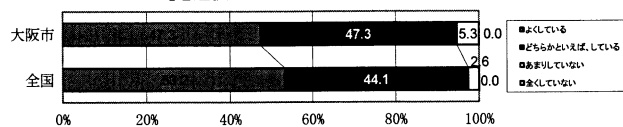
課題の共有、取り組みの継続にむけて、職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。研究活動については、本年度より体育科の研究をスタートした。

質問 番号 質問事項

100 (学校質問紙)

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

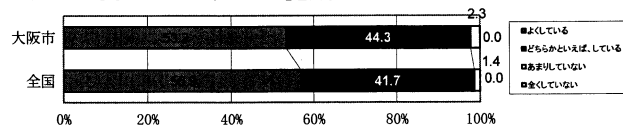
学校「よくしている」を選択



98 (学校質問紙)

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか

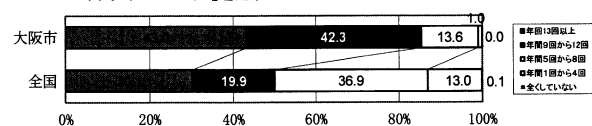
学校「どちらかといえば、している」を選択



91 (学校質問紙)

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校「年間5回から8回」を選択



成果と課題

問題発生時は全教職員で問題を共有し、解決に向けて取り組んでいっている。
体育科の研究においては、運動領域の系統的な学びを構築していく必要がある。

今後の取組

課題の共有、取り組みの継続を職員が一体となって実践していくことを続けていく。また、学力向上に向けた部会を新たに設置し、見える学力と、見えにくい学力のバランスの良い指導の在り方を探る。